

I 実践

1 本校の人権教育実践の目標

差別や偏見によって起こる問題を自らの問題としてとらえ、一人一人が互いに人権尊重の心を持ち、差別や偏見をなくそうとする態度を育てる。

2 本校の人権教育における努力点

- (1) 人間尊重の場の設定に努める。
 - ・自他の良さに気づく場の設定と言葉かけの工夫
 - ・授業研究の推進
 - ・一人一人が尊重される学級づくり
 - ・ボランティア活動の推進
- (2) 差別や偏見の問題を直視し、正しい判断力の育成に努める。
 - ・人権教室の実施
 - ・教科による人権意識の向上

3 実践内容

(1) 人間尊重の場の設定に努める

① 自他の良さに気づく場の設定と言葉かけの工夫

ア あいさつ運動

生徒会主導によるあいさつ運動を行っている。今年度は学級単位から部活動単位での活動に変更し、毎学期1か月間、昇降口に立ちあいさつ運動を行った。2学期には豊浦小学校前でのあいさつ運動も実施し、いつでも・どこでも・誰とでもあいさつができる生徒の育成を目指している。また、あいさつ運動のイメージキャラクターを、全生徒に募集・決定した。文化祭などで登場させることで、あいさつの意識をさらに広めていくよう活用している。

イ メッセージカードの作成

学校行事で企画や準備を行った実行委員や、大会に臨む部活動の選手へ、全校生徒が感謝や励ましのメッセージを書き、廊下に掲示している。たくさんの感謝や励ましが、一年を通して見られる環境づくりを推進している。

ウ 賞賛状

本校では、家庭学習を1冊終えるごとに「努力を讃える賞賛状」が発行され、校長より表彰される。内容や時間、成績に関係なく、誰もが自分の努力を認められる機会となっている。また、思いやりのある行動を賞賛する「心を讃える賞賛状」を発行し、生徒を褒める場面を増やすよう工夫を実施している。

② 授業研究の推進

本校の学校課題研では、「学習意欲を高め、自己肯定感を育む学習指導」を主題に、授業研究を推進している。生徒が有用感や成就感を得られる雰囲気醸成するため、各教科において学び合いの活動や、自分の意見を言いやすい環境づくりを工夫した。

③ 一人一人が尊重される学級づくり

毎日、級友の良い行いを賞賛し学級に掲示していくなど、生徒一人一人が所属感や自己有用感を感じる事のできる環境づくりを、各学級で工夫して行っている。

④ ボランティア活動の推進

十王川の清掃活動や川尻海岸の清掃など、ボランティア活動を通して、地域の一員としての所属感や、地域協力の心を育んだ。

(2) 差別や偏見の問題を直視し、正しい判断力の育成に努める

① 人権教室の実施

1学年を対象に講師を招いて人権教室（平成27年11月9日）を実施した。いじめに対しての講話やビデオ鑑賞を行い、事例をもとに生徒に話し合わせ、感じたことや考えたことをワークシートにまとめることで、自分たちに身近な問題としていじめを捉えさせた。

② 携帯電話マナーアップ教室の実施計画

インターネット上の人権侵害を未然に防ぐため、携帯電話マナーアップ教室を2月に実施する。スマートフォンが普及し、これからさらにトラブルの危険性が増す中、全生徒が正しい使い方や判断する力を身に付け、情報モラルの向上を図る。

③ 教科による人権意識の向上

国語科：社会的差別を題材とした作品で、登場人物の心情を考え、差別や偏見をおかしいと思える感性を育んだ。

社会科：公民的分野においては、人権の意味や、様々な人権課題の正しい理解を図った。また、歴史的分野でも同和問題や、アイヌの人々に対する偏見の歴史など、人権に関する問題の根深さを知り、正しい理解ができる指導に努めた。

II 成果

- ・ 今年度から部活動単位であいさつ運動を行ったことで、他学年とのあいさつが増え、明るいあいさつの輪がさらに広まった。また、イメージキャラクターの作成では、あいさつを広めるためのよく考えられた案が数多く見られた。生徒があいさつの大切さを考える機会となった。
- ・ メッセージカードを立ち止まって見る生徒もおり、誰かの役に立つ有用感や、応援される嬉しさを感じる場となっている。
- ・ 人権教室では、ビデオでいじめの事例を見ながら、自分が同じように嫌なことをされたらどのように感じるか考えさせた。事後のアンケートでは、今後の生活で友達を傷つけないよう気を付けていくことや、いじめをなくすために自分ができることが書かれており、自他を思いやることの大切さに気付く機会となった。

III 今後の課題

- 生徒の人権尊重の意識を高めるため、人権コーナーの設置や掲示物の充実といった校内環境、校内研修による教師の人権意識の向上、さらに道徳を中心とした学校教育全体での人権教育の実践の拡充を図っていく必要がある。